

デジタルツイン実証実験（スマートけいはんなプロジェクト）

■ 都市課題

- SDGsを踏まえた持続可能な都市づくり
- 高齢者などの災害時を含めた移動手段の確保
- スマートで安心・安全、快適な生活が営める環境
- 分野横断的で効率的な施策による行政コスト軽減

■ 解決方策

- 複数の施策をデジタルツインによって横断的に可視化
- 相互の関係性を勘案しながら最適解を検討

■ KPI

- 地域への宅配ボックスの設置
3ヶ所 (R2年度計画) ⇒ 5ヶ所 (R2年度実績)
- 地域住民の移動における自動車負担率(買物)
81% (R1.11実績) ⇒ 70% (R5年度計画)

■ 実証実験の概要・目的

オープン型電柱吊り宅配ボックス、ラストワンマイルモビリティ、GPS搭載シェアサイクルなどの事業を横断的に可視化することにより、各事業の“見える化”と関係者間の情報やノウハウの共有を図り、プロジェクト全体の最適化や社会実装の促進への効果を検証する

■ 実証実験の内容

地形・建物3Dデータ 電柱吊り宅配ボックス ラストワンマイルモビリティ GPS搭載シェアサイクル



移動データ、物流に伴う生活行動データなどを
デジタルツインに集約



けいはんなデジタルツイン

都市課題に応じたデジタルツイン構築の効果を検証

- プロジェクト全体の最適化や社会実装の促進
- 取組みを複数市町村に展開する際の課題有用性

■ 実証実験で得られた成果・知見

目標達成	● デジタルツインの構築やデータの可視化に関して技術的な課題を解決
持続可能性	● 今回はデータ入力を手作業で実施 ● 実装に向けては自動的にデータを蓄積・入力する仕組みが必要
役割・体制	● 実証実験データ提供5者間で、データの項目、形式、表現方法などについて会議等で調整 ● ルール化、テンプレート化が必要
データ利活用	● 利活用の対象・範囲をコンソーシアム内に限るという前提で実施 ● 今後は対象、範囲ともに拡大、オープン化を検討

■ 今後の予定

- 各種の統計データや交通システムの運行データなどの関連データを可視化、分析し、シミュレーションや最適化のツールとして利活用（インフラ整備等）
- データのメンテナンスの仕組みづくりやビジネスモデルの確立によって、持続可能な事業へ